



講演会参加報告

① 食事サービスを考えるつどい ～食事を通じた地域連携の価値について～ 1/11 (木)

東京食事サービス連絡会主催による Zoom オンライン開催でした。

・基調講演は、東京都健康長寿医療センター研究所の秦 俊貴氏の健康長寿の為（フレイル予防）のお話でした。

予防の三大柱は「栄養」「体力」「社会参加」で、普段の生活に無理なく“ちょい足し”することでもっと健康に過ごしましょう。

フレイル予防については、東京都保健局<介護予防>フレイル予防ポータルなどのサイトで詳しく解説していますので、是非ご覧いただきたいと思います。



・連携事例発表として、みのりと地域包括支援センター向陽台のコーディネーター 谷地中 恵子氏が現在の活動内容や地域との関係を写真・ビデオを交えて紹介しました。

私達“支え合う会みのり”は40年の歴史の中で地域住民が参加する食支援活動を行ってきました。この活動により支えられる人も支える人も自らの居場所で多様な価値を生み出せています。

本当に素晴らしい活動なのです。ですからもっと自信を持って包括支援センターに私達の活動を知ってもらう努力をすべきだと思いました。

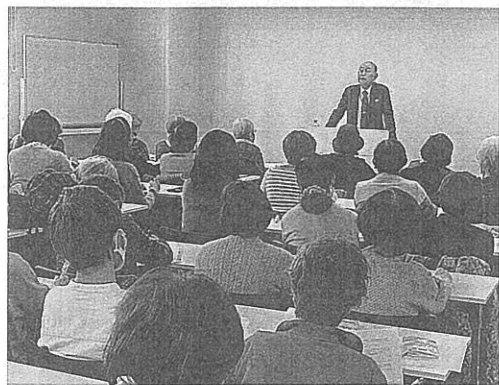
高齢化の進む中、行政の力を借りなければならない案件が増えてきています。今後も情報を共有し協力することで私達の食支援活動もより認知され拡大していくと思います。

<吉川>

② 市民活動支援講座「稲城で安心して住み続けるために」 1/14 (日)

若葉台iプラザにて40数名の参加で市民活動支援講座が開かれました。講師の大橋 謙策氏は、若葉台在住であり、長年福祉関係の研究と政策策定に関わってこられました。

現在、福祉政策として国民皆保険・皆年金、介護保険と個人的保障が実現しています。今後は地域福祉による包括的支援が必要との考えを述べられました。幼児、若者、高齢者、障がい者等を縦割り行政の枠を越えて、地域住民と協力し、地域で支える方策を考えることが重要であり、全国で対処している事例を上げて話されました。



また、独居高齢者や家族に頼れない人たちについて、終活や保証人問題など公的対策を検討することが早急の課題であるとも述べておられました。

講演会の参加者からは、「時間が短くて残念でした」「このような話はもっと若い頃に聞きたかった」「若い人たちに聞いて欲しかった」などの感想がありました。

<野口>

